

光星きょう初戦 「打撃は上向き」

開会式は主将のみ参加

第104回全国高校野球選手権大会は6日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕し、49代表校による17日間(休養日3日を含む)の熱戦が始まった。本県代表の八戸学院光星は7日午前8時から第1試合で創志学園(岡山)と対戦する。開会式は、49代表校による17日間(休養日3日を含む)の熱戦が始まった。同日、同市内の津門中央公園野球場で2時間ほど最終調整。創志学園の投手を意欲した打撃のほか、守備練習に汗を流した。ここ数日は午前4時に起床し、早朝の試合に備え

体を慣らしているという。仲井監督は「自分たちの力を最大限発揮できる準備はしてきた。思い切って全力を出し尽くしたい」と意気込んだ。

6日の開会式は、新型コロナウイルス感染症予防のため各校の主将のみが参加し、入場行進で球場を1周。横浜(神奈川)の玉城陽希主将が「高校野球の新たな歴史に名前を刻めるように、全身全霊でプレーをし、最高の夏にすることを誓います」と選手宣誓した。

最後から3番目に入場し、緊張した面持ちで行進した光星の主将洗平歩人は「うれしい気持ち半分と、自分だけになり残念な気持ち半分」と語り、初戦に向けて「不調だった打撃が目に見えて上がってきている。相手をのみ込むくらいの勢いでやれるよう、最後まで準備する」と話した。

新型コロナウイルスの集団感染と判断された県岐阜商、浜田(島根)、帝京五(愛媛)、有田工(佐賀)、九州学院(熊本)、複数の体調不良者が出た九州国際大付(福岡)の6校は開会式を欠席し、プラカードを持つ女子生徒が行進した。

大会は新型コロナウイルスの観戦対策を講じて、3年ぶりに一般観客を入れた開催となった。選手らは大会中にもPCR検査を実施する。大会中に新型コロナウイルスに感染した選手、感染が疑われる選手が出た場合、試合開始の2時間前まで登録選手の変更が可能となっている。(野村遼)



7日の初戦に向け打撃練習に汗を流す光星ナイン。6日午前、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場

光星の応援隊
300人甲子園へ
第104回全国高校野
球選手権大会に出場する
八戸学院光星野球部の応



教職員らに見送られながら、甲子園に向けて
出発した八学光星の応援隊—6日午前、同校

援隊約300人が6日、バスで八戸市を出発した。7日の第1試合で、創志学園(岡山)との初戦に臨むナインを甲子園のスタンドから応援する。

6日、同校玄関前で行った出発式で、中村良寛校長が「コロナ禍で甲子園に行けない人の思いも背負って、アルプススタンドから思い切り応援し

てきて」と激励。

参加生徒280人を代表し、田名部真心(ま)さん(3年)が「光星ナインが東北勢初の甲子園制覇を目指して戦う。私たちも精いっぱい応援し、選手とともに最後まで戦おう」と呼びかけた。式の後、学校に残る教職員や生徒らが手を振る中、バス8台で同校を出発。7日に甲子園入りす

る。同校でも生徒らが集まり、テレビ中継を観戦しながらエールを送る。(小松廉)

「打の光星」復調なるか

きょうの見どころ

▽第1試合(8時)

八戸学院光星—創志学園(岡山)

八戸学院光星は県大会決勝で6投手をつないで逃げ切った。背番号1の洗平歩と弟の洗平比の継投にも注目。県大会5試合でチーム打率2割9分2厘と振るわなかった打線の復調も鍵となる。春の中国大会王者の創志学園はエース岡村がほぼ1人で投げ抜いた。今夏で退任する長沢監督の下、一つでも多く勝ちたい。